

国際協力特別賞

「認めあうこと」

フェリス女学院中学校 3年

鈴木 愛

人と違うことは決して悪いことではない。私はそう信じている。

しかし、現実には甘くない。例えばここ数年話題になっている「イスラム国」。イスラム教のスニ派を信じる彼らは自分たちと異なる宗教、派閥を過激なテロを用いて弾圧している。また、日本国内においても、問題は発生している。外国人のアパート、マンションの入居拒否、就職の難しさなど、外国人への差別が後をたたない。つまり、人々は自分と違う物に対して寛大になれていないのだ。

私は母が中国人である。小学生の時はこのことを必死で隠していた。このことを知られることで友達から嫌われるのではないかと心のどこかで恐がっていたからだ。しかし、私の必死さも何の役にも立たず、ある保護者会を境に、クラスの皆に知られてしまった。知ってからも私と変わらず仲良くしてくれた子もいるが、全員がそうではなかった。ある子はひたすら私をかわいそうだと言ひ、国語のテストで良い点を取れば先生にわざとらしく褒められる。私は何もかもが嫌だった。クラスメイトも先生も保護者会に出席した母も何もかも嫌になっている自分も嫌いになった。一度嫌いになると止まらず、次第に周囲にやつあたりしたり、冷たく接したりする。相手の悪い所しか見られなくなる。もし、私がみんなと同じだったら良かったのに。宛先のないうらみのような物がどんどんたまっていく。

そんなある日、ニュース番組の特集で中国から日本に来て暮らし始めた中学生の女の子が取り上げられていた。私は思わず見入ってしまった。彼女は両親共に中国人で且つ日本語もたどたどしかった。しかし自分の境遇に引け目を感じていなくさらにこう言った。日本に来てから自分が周りとは違うと分かって嬉しい、特別な感じがする、と。その言葉を聞いて私は心が軽くなった気がした。それからは、周囲に対して冷たくなることも減って行って、毎日が楽しくなった。特に相手の良い所を見つけると気分が和む。

人々は相手の短所しか見ようとしなから自分との違いに寛大になれないのだと思う。違いの中には短所だけでなく長所もたくさんある。他の宗教の中にも外国人の中にも。この世界には約70億人が暮らしている。それとほぼ同じ数の性格があり、習慣があり、文化がある。もし、一人一人が相手のことをよく理解し、お互いの良い所を尊重し合えば、戦争もなくなり、今よりも百万倍平和で暮らしやすい世界になると思う。その第一歩として、私は、関わった人の長所を1人7個ずつ見つけていきたい。

私の名前は中国語でも日本語でも「アイ」と発音する。意味もそのまま同じだ。「愛」という名前はたくさんあるが、この由来で名付けられた「愛」は私一人だけだと思う。この名前をつけてく

れた私の家族に心から感謝している。